



河口湖新倉掘抜の学習 講師は杉本悠樹さん

掘抜に込められた河口湖と新倉の人々の願いとは



河口湖新倉掘抜記念碑

町立教育センターでは、地域を生かした体験活動プログラムを行っています。その一つに河口湖新倉掘抜の学習があります。この学習は町内の4年生を対象に行っています。富士山科学研究所との連携で行われ、1,2時間目に「富士山の形と成り立ち」と「富士山の周りの地理的条件」を学びます。講師は富士山科学研究所の先生方です。3～5時間目には、見学に出かけます。見学では、昨年度に引き続き今年度も生涯学習課係長文化財担当の杉本悠樹さんに講師を務めていただきました。

見学の流れは河口湖新倉掘抜記念碑→史跡館前→県庁隧道→うそぶき治水トンネル→東電うそぶき放水路取水口→河口湖新倉掘抜出口→東電うそぶき放水路放水口→新倉河口湖トンネルの順です。河口湖新倉掘抜は、河口湖の水を新倉村へ引くために170年もの時をかけてうそぶき山の下を掘り抜いた全長3,8kmの日本最長の手掘りトンネルです。「なぜ、苦勞してこのような手掘りトンネル工事を行わなければならなかったのか?」「県庁隧道・東電うそぶき放水路・うそぶき治水トンネル・新倉河口湖トンネルは、なぜつくられたのか?」ポイントはそこに住む人々の願いです。願い実現のためにどのような努力や苦勞があったのか。その願いは実現したのかなど見学しながら考えていきました。

残念ながら史跡館が閉館したため掘抜の河口湖側は見ることはできませんでしたが、新倉の掘抜出口を実際に見た子どもたちは「こんな硬い岩を手で掘ったなんて信じられない。すご過ぎる。」と驚きの声を上げていました。正に「百聞は一見に如かず」。どこの場所でも予想を超えるような光景が目の前に広がっていました。現地を見学しながら説明を聞くことで水害に悩む河口湖の人々と水不足に悩む新倉の人々の願いが明らかになっていきました。

富士山科学研究所の先生方や生涯学習課文化財担当の杉本悠樹さんのお力により、今年度も充実した学習ができました。



東電うそぶき放水路放水口



河口湖新倉掘抜史跡館前



河口湖新倉掘抜出口

夏休み自由研究展示会

防災について 自ら研究を深めた子どもたち



船津小 6年 古谷健人さんの作品

11月中、町役場で防災についての夏休みの自由研究展示会が開かれました。夏休みに、町地域防災課が地域の防災力向上を目的に、ジュニア防災士講座を企画しましたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、中止になってしまったため、子どもたちが各自で研究を行い、夏休みの自由研究として学校に提出した作品が展示されました。どれもその子なりに考えて配付された資料を活用しながら自ら動いて研究を深めていったことが作品から読み取れます。

特に船津小学校6年の古谷健人さんは足和田災害や河口湖の水害などを実際に経験した祖父母の話をもとに災害の怖さをまとめたり、自分の地域の危険箇所を調べて防災マップを作成したりして、災害が起きた時にどのように行動したらよいのかという視点ですばらしい研究を行いました。

ジュニア防災リーダーとして、今回の研究を積極的に様々な場面で発信して行ってほしいと思います。

第4回研究員会(富士山学習研究会)

多くの学校で防災教育の授業を実施

町立教育センターが中心になって研究を行っている富士山学習研究会。12月1日(木)には第4回研究員会が開かれました。

この3年間行ってきた防災教育が話し合いの中心となりました。「3年間で3つの防災授業案が作られ、そのうちの2つについては継続が見通せる状況になりプログラム化された。」「今年度も河口小学校や勝山小学校など多くの学校で防災教育の授業が行われ、大きな成果を上げることができた。」など、まとめが報告され、それを来年度につなげ、更に広げていくことが確認されました。

後半の学習会では町地域防災課の渡辺大介さんからジュニア防災士やキッズ防災士の取り組みについて、富士山科学研究所の久保智弘先生からは勝山中学校区の引渡訓練や今年度の防災授業の振り返りの報告がありました。



勝山小 親子防災授業

良いお年をお迎えください

一年間で一番長い2学期が終わり、冬休みがやってきます。

運動会、校外学習、修学旅行など、大きな行事や出来事がたくさんありました。そして、毎日の授業で多くのことを学んだ2学期であったと思います。

冬休みの間に新しい年がやってきます。たくさんのおのおかげで、今年一年過ごすことができたことに感謝し、新たな気持ちで新しい年を迎えてほしいと思います。

今学期も御支援・御協力ありがとうございました。皆様、良いお年をお迎えください